

平成 2 8 年度事業報告

平成 2 9 年 5 月

公益財団法人利用運送振興会

平成28年度事業報告

はじめに

公益財団法人認定5年目を迎えた当該年度は、財団設立趣旨に準拠した堅実な運営を実践し、物流博物館事業を推進してまいりました。

年度中には老朽化したエアコンの故障に伴う部品取替工事や、展示室及び収蔵庫の温湿度センサーの故障による交換工事が生じました。事業面では来館者の興味を惹くミニ企画展や講座を開催することで、集客増に努めました。今後も展示内容の充実や効率的な運営を目指し、各種学校団体見学や新入社員研修などの誘致に一層努力し、幅広い来館者層に利用していただくための取り組みをおこなってまいります。

1. 平成28年度の事業経過の概況について

A. 重点推進項目の実施状況

平成28年度事業計画にもとづき、次の4項目を重点推進項目として取り組んでまいりました。

- (1) ミニ企画展の開催実施と特別展・常設展示の改良に向けた準備
- (2) 一般入館者および団体見学増に向けた広報活動の強化
- (3) 収蔵資料の整理・データ化の推進
- (4) 運営資金の確保

(1) ミニ企画展の開催実施と特別展・常設展示の改良に向けた準備

ミニ企画展「高輪牛町・牛がモノを運んでいたころ」を開催しました。来館者に好評をいただき会期を22日間延長しました。常設展示については、「現代の物流展示室」情報コーナーのコンテンツを整理・更新し、物流に関する様々な数字をグラフ化するなど、修学旅行で来館する中学生にもわかりやすい表記にしました。そのほか定期的な展示替えをおこないました。

展示以外には、恒例の催事である「なつやすみダンボール工作コーナー」、「美術品梱包講座」、「ペーパークラフト教室（日本内航海運組合総連合会との共催）」、「古文書講座初級編」、「古文書講座（中級者向け）」、「クリスマス・サンタクロース映画会」などを昨年引き続き実施しました。

(2) 一般入館者および団体見学増に向けた広報活動の強化

ミニ企画展の開催や恒例のイベントを行うとともに、博物館連携団体や各地博物館・美術館、企業他関係先などに幅広く情報発信を行い、地上波テレビ、地元ケーブルテレビ、全国紙都内版、鉄道趣味誌、業界紙誌、タウン紙、旅行関係書籍、WEBサイト等各方面で紹介されました。

(3) 収蔵資料の整理・データ化の推進

昨年度に引き続き、収集後、未整理となっている収蔵資料について資料整理に取り組んでおり、本年度も年末に資料整理休館期間を設け、資料の点検・整理、収蔵環境の向上のための収納設備の整備をおこないました。また、同様にこれまでも実施してきた収蔵資料目録のデータ化を進めてま

いました。収蔵している映像資料については、日本通運(株)広報部に協力し、これまでに約100本ほどのデジタル化を進めました。

(4) 運営資金の確保

事業実施に際しては効率的な運営を心掛け費用節約に努めるとともに、特定資産の安全かつ効率的な運用に努めてまいりました。

B. 物流博物館の具体的な事業実施状況について

(1) 利用者数

a. 入館者数

平成28年度は、開館日数は279日となりました(対前年度4日増、1,5%増)。入館者数合計は8,974人で、前年度実績(8,169人)を9,9%上回り、予算(7,330人)を22,4%上回りました。28年度末時点の開館以来の累計入館者は147,268人となりました。

b. 団体見学者数

団体見学者数は、小学校9校553名、中学校57校375名、高等学校14校282名、大学13校197名、専門学校5校84名、一般団体72団体1,225名、企業団体77団体888名、地域団体10団体92名で、団体数合計は257団体、団体見学者数は3,696名でした。

(2) 平成28年度に実施した企画事業等

a. 普及事業

① なつやすみ段ボール工作コーナー

実施日：8月13日・20日(土)(全2回)

参加者：こども83名+保護者73名=156名

概要：梱包資材である段ボールで自分だけの機関車・トラック・貨物船を制作。

② 学生向け体験講座「美術品の梱包・入門(陶器)編」

実施日：8月10日(火)(午前・午後全2回)

参加者：27名

概要：梱包の専門家を講師に招き美術品梱包の初歩を体験するもの。

日本通運(株)美術品事業部協力。博物館学芸員資格を取得中の大学生や、博物館関係者などが参加。陶器の梱包体験のほか美術品専用車を見学。

③ 古文書講座「古文書を楽しむ～古文書講座初級編～」

実施日：5月14・28日、6月18日、7月2日の土曜日(全4回)

参加者：のべ101名

概要：典型的なくずし字の読み方や、江戸時代の古文書のパターンに触れて、楽しみながら古文書に親しむ講座。今回初めての開催。

講師：学習院大学非常勤講師 田中潤先生

④ 古文書講座「巨大城下町江戸の交通事情—旧幕府引継書「永代橋渡銭取書留」をよむ—」

実施日：10月8日・22日、11月12・26日の土曜日(全4回)

参加者：のべ112名

概要：物流に関する歴史について、古文書の解説を行いながら解説する講座。今回は、18世紀中頃の永代橋焼失に伴って行われた渡船に関する史料を読みながら、隅田川河口域の地域の様相についても紹介。

講師：深川東京モダン館副館長・東洋大学非常勤講師 龍澤潤先生

⑤クリスマス・サンタクロース映画会

実施日：12月17日(土)(午前・午後全2回)

参加者：こども29名+保護者31名=合計60名

概要：プレゼントを「運ぶ」サンタクロースをテーマにした映画を2本上映し、サンタがこどもたちにプレゼントを贈呈。

⑥博物館学芸員実務実習の受入

実施日：8月2日(火)～6日(土)/9日(火)～14日(日)(10日間)

受入人数：6名(青山学院大学2名・東京農業大学1名・東洋英和女学院大学1名・日本大学1名・明治学院大学1名)

概要：大学で博物館学芸員資格取得を目指す学生の実務実習の受入れ。展示実習では博物館エントランスでの車石の展示に、絵図パネルや地図パネルを新規追加して、よりわかりやすく改良。

⑦高輪伝馬の会

概要：高輪伝馬の会は、古文書講座(平成13～27年度実施)の参加者のうち、講座終了後も継続して古文書読解を行うことを希望したメンバーにより、平成15年11月に発足した自主的な勉強会。平成27年度も引き続き毎月第1・3土曜日に当館を会場として開催(8月を除く)。

参加人数：延べ101名

開催回数：全20回

b. 企画展

①ミニ企画展「高輪牛町・牛がモノを運んでいたころ」

会期：10月26日(水)～1月31日(金)(63日間)

会期中入館者数：2,194名

概要：江戸時代、牛車を用いて荷物の輸送に従事していた人々が集住していた江戸の高輪・牛町(現在の東京都港区・都営浅草線泉岳寺駅付近)と、戦後も物流現場で活躍した牛車の様子を紹介。

c. 外部協力

①共催事業

1)講座「内航船ペーパークラフトを作ろう！」

共催団体：日本内航海運組合総連合会

実施日：8月27日(土)(午前・午後全2回)

参加者：こども29名+保護者25名=合計54名

会場：物流博物館

概要：くらしと産業に欠かせない貨物を運ぶ内航船についての解説を聞き、貨物船のペーパークラフトを制作する夏休みのこども向け企画。

講師：オトウカトウ氏(工作ユニット)

2) 展示「貨車車票の世界」展

共催団体：貨物鉄道博物館（三重県いなべ市）

実施日：7月3日(日)～9月4日(日)（毎月第1日曜日開館）

会場：同館

概要：昨年度、当館にて開催した企画展示「貨車車票の世界」展の巡回展を貨物鉄道博物館にて行った。

②外部イベント協力

1) アウトリーチ（出前講座）

講座名：港区立豊岡いきいきプラザ「ふろしきバッグ作りと映像で見る物流の今昔」

主催団体：港区立豊岡いきいきプラザ

実施日：7月20日(水)

対象：60歳以上の港区民

参加者数：20名

会場：港区立豊岡いきいきプラザ 1階敬老室

概要：ふろしきバッグ作り体験と昔の物流の映像上映。

担当・講師：三田芳美・玉井幹司

2) 「ミナコレバスツアー」への協力

実施日：2月10日(金)

参加者：港区民24名

主催：港区

概要：港区内の美術館・博物館と区が連携し、年2回行われる文化芸術事業「ミナコレ」にて開催されるバスツアーに協力。全8コース中のBコース「歴史を知る～東京・物流の今昔」というテーマのもと4館を巡るコースにおいて、当館では常設展示を紹介。

3) 東京学芸大学附属高等学校見学実習プログラムへの協力

実施日：2月7日(火)

対象：東京学芸大学附属高等学校2学年44名

概要：同校2学年必修科目「現代社会」での見学実習プログラム実施にあたり、日本通運株式会社CSR部・海外企画部へ講師派遣要請を行った。講師による現代物流の講義及び、当館職員による館内案内。

講師：日本通運株式会社CSR部佐藤健吾次長・海外管理部佐藤光主任

③博物館関係諸団体との連携と共同の取り組み

1) 「産業文化博物館コンソーシアム」（通称：COMIC）

概要：平成 20 年春、企業ミュージアムの運営者が集い同コンソーシアムが発足して以来、定例開催のシンポジウム・事例研究会や年 1 回開催の全体会に極力参加。連携緊密化と情報交換に尽力。

2) 「みなとの博物館ネットワークフォーラム」

概要：港に関する文物を研究・所蔵・展示する博物館及び港湾関係者で構成され、相互情報交換や連携事業を実施。書面連絡等で参加し、よりよい活動への意見提出など連携緊密化と情報交換に尽力。

3) 「港区ミュージアムネットワーク」への協力

概要：東京都港区の主導により、同区内に所在する博物館・美術館等の相互情報交換や連携事業を実施。平成 20 年春に同ネットワークが発足以来、物流博物館として各種事業に極力参加し、博物館の広報と連携に尽力。また、港区内の美術館や博物館などの文化施設と区が連携して、文化芸術イベントを開催する事業「ミナコレ」に例年どおり参加。

4) 「全国街道資料ネットワーク」への参加

概要：同ネットワークは、特定非営利活動法人全国街道交流会議と逋信総合博物館（現・郵政博物館）が中心となって平成 25 年 12 月に発足。全国の街道関係の資料を保存する機関等から構成される組織体を志向。当館も要請を受け発起人として参加。平成 28 年度は、このネットワークの活動の一環として行われた郵政博物館の企画展「切手でみる星の物語展」の関連イベントとして、トークセッションが 11 月 3 日に行われ、埼玉県立文書館長・郵政博物館長と物流博物館主任学芸員（玉井）が講演。また、埼玉県立歴史と民俗の博物館で行われた会議に参加し、連携緊密化と情報交換に尽力。

④各種イベント等への出展・連携など

1) プロロジス CSR 活動

実施日：7 月 27 日（水）、12 月 28 日（水）

概要：同社 CSR 活動の一環として平成 20 年度より、東京・大阪両オフィスで同社社員によるボランティア活動として、段ボール工作キットや当館のしおりの制作作業を毎回 1 時間程度依頼。

参加：毎回、約 100 人（同社社長始め社員の皆様）

2) 第 9 回優良ロジスティクス企業業界研究会 2017 への出展

実施日：2 月 21 日（火）

参加者：就職活動中の学生

主催：ロジスティクス人財フォーラム（イー・ビジネス・ドットコム（有））

会場：秋葉原 UDX 2 F（アキバスクエア）

概要：学生に対するキャリア教育の一環として実施され、物流関連企業や業界に対する理解促進を目的とした合同説明会。物流関連企業のみが参加することが特徴で、物流業界に興味を持つ学生に対し当館を広くPR。当館の出展は今回2回目。

⑤学芸員による出講・講演・執筆(全て主任学芸員玉井幹司が対応)

1) 日本通運グループ企業新入社員研修へ出講

主催：日通グループユニバーシティ

実施日：4月25日(月)

会場：日通グループユニバーシティ

概要：物流の歴史と日本通運の歴史について講演。

担当：玉井幹司

2) 全国通運連盟寄附講座へ出講

主催：全国通運連盟

実施日：10月5日・12日の水曜日〔第1回、第2回〕

会場：流通経済大学

概要：全国通運連盟寄附講座(全14回)のうちの2回を担当。「物流と通運の歴史」と題して江戸時代の交通・運輸制度から明治以降の鉄道貨物取扱業の歴史、近年の概況までを講演。

担当：玉井幹司

3) 郵政博物館 街道資料トークセッション「北斎が描いた街道」に出講

主催：郵政博物館

協力：全国街道資料ネットワーク

実施日：11月3日(木・祝)

会場：郵政博物館

概要：郵政博物館の企画展「切手でみる星の物語展」の関連イベントとして、トークセッションが行われた。埼玉県立文書館長・郵政博物館長と物流博物館主任学芸員(玉井)が講演。

担当：玉井幹司

4) 東京倉庫協会に出講

主催：東京倉庫協会

実施日：12月14日(水)

会場：ロイヤルパークホテル(東京都中央区)

概要：江戸～明治時代の都市内水運について講演した。

担当：玉井幹司

5) 『ミュゼ』第106号に執筆

発行日：平成29年1月25日

掲載紙：『ミュゼ』第106号

タイトル：「「はこぶ」営みと「物流」への関心を開くさまざまな体験キット」

6) 『郵政博物館 研究紀要』第8号に執筆

発行日：平成29年3月

掲載紙：郵政歴史文化研究会編『郵政博物館 研究紀要』第8号
タイトル：「郵政博物館蔵「甲子 延享元年 日記 四番」（飛脚
問屋・嶋屋佐右衛門日記 第四分冊〔「宿駅日記」第四
分冊／「寛保二年 定飛脚日記 四」〕」
概要：飛脚関係の古文書の史料解題を執筆。

d. 資料公開

①資料館外貸出

1) 真誠講看板・伝馬朱印状・伝馬定書

会期：10月8日(土)～11月20日(日)

会場：川崎市市民ミュージアム

概要：企画展「旅する人びと～東海道五十三次から世界へ～」にて
展示。

C. 寄附金の収受実績について

(1)物流博物館等維持会正会員各社・準会員各社による寄附

大変厳しい経済環境下、日本通運(株)殿を始めとする維持会正会員7社の
絶大なご理解により合計27,000千円のご寄附を賜りました。

準会員については、一般公募(日通関係各社以外)19社から合計19口
570千円、日通関係42社から合計69口2,150千円、合計61社、
91口2,720千円のご寄附を賜りました。

以上、正会員7社・準会員61社、合計68社による寄付合計額は29,
720千円(対予算280千円減、対前年度実績700千円減)となりました。

(2)物流博物館等維持会正会員各社・準会員各社新規入会の状況

平成28年度においては、準会員として日本パレットプール(株)・日通八
幡作業(株)・日通つくば運輸(株)・日通岐阜運輸(株)・(株)ワンビシアーカイブズ
の5社に新規にご入会いただきました。

D. 平成28年度収支の状況

(1)収支状況

経常収益計は36,135千円で、予算(35,818千円)に対して3
17千円増(0.9%増)、前年度実績(39,047千円)に対して2,
912千円減(7.5%減)となりました。対予算は、博物館事業収入(入
館料・その他博物館事業収益)の増が主な内容です。対前年実績は、満期
償還に伴う債券の買い替えをおこなったため、特定資産受取利息が減とな
ったことによるものです。

経常費用計は58,518千円で、予算(60,464千円)に対して1,
946千円減(3.2%減)、前年度実績(79,330千円)に対して20,
812千円減(26.2%減)となりました。減価償却費以外の要因として、
対予算はミニ企画展での印刷製本費が予定より抑えられたこと、修繕費・
光熱水料費の減、対前年は光熱水料費の減と今年度は企画展を実施しな
かったため、展示関連での外部への講師や執筆依頼がなかったことが挙げら

れます。

(2) 運用手元資金

平成29年3月31日の手元資金は、758百万円で、内訳は次のとおりです。

	(百万未満は切り捨て)		
	平成29年3月末	平成28年3月末	平成27年3月
国債	487百万円	287百万円	286百万円
地方債	100百万円	150百万円	150百万円
社債	0円	0円	100百万円
政府保証債	100百万円	0円	0円
証券会社へ預け金	0円	100百万円	0円
定期預金	25百万円	175百万円	175百万円
普通預金	44百万円	44百万円	43百万円
合計	758百万円	757百万円	755百万円

(3) 正味財産

平成29年3月31日現在の正味財産は以下のとおりです。

平成29年3月末 平成28年3月末 平成27年3月末

2,356,706,132円 2,379,088,365円 2,419,370,722円

※正味財産減の主な要因は平成18年度からの固定資産減価償却
(当期償却額 24,893,578円)によるものです。

以 上